

■ 風しんとは

風しんとは、風しんウイルスの感染によって起こる急性熱性発疹症です。潜伏期間は2～3週間で、主な症状として、発疹、発熱、リンパ節腫脹が認められます。まれに血小板減少性紫斑病や脳炎を合併することがあり、軽視できない疾患です。特に妊娠初期の妊婦が感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、先天性心疾患、白内障、難聴などの先天性風しん症候群の児が生まれることがあります。

■ 予防接種の効果

麻しん風しん混合（MR）ワクチンは、麻しんウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作られた生ワクチンです。1回の接種で95%以上の人々が、感染予防に必要な抗体ができると言われています。

■ 予防接種の副反応

主な副反応は、発熱と発疹、局所症状（疼痛、腫脹、硬結、熱感等）です。稀にみられる副反応としては、アナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれん等があります。

※重い副反応が定期の予防接種によるものと認定されたときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付対象となります。

■ 対象者

- （1）接種日時点で周南市に住民登録がある、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性で、令和7年3月31日までに実施した風しん抗体検査結果、十分な抗体がないと判定された方。
（令和7年度以降に抗体検査を実施した方は、対象外。）

■ 予防接種を受ける前に

（1）一般的注意

予防接種について、このお知らせを読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師等に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

また、予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受けるご本人が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

（2）予防接種を受けることができない人

- ① 接種当日、明らかな発熱のある人（一般的に体温が37.5℃以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 接種液に含まれる成分によってアナフィラキシーショックを起こしたことが明らかな人。

「アナフィラキシー」は、通常接種後約 30 分以内に起こる強いアレルギー反応のことで、じんましん、吐き気、顔が急にはれる、おう吐、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④ その他、医師が不適当と判断した場合

(3) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、血液、脳神経、発育発達の病気、悪性腫瘍など何らかの病気がある人
- ② 予防接種を受けたときに、2 日以内に発熱、発疹（ほっしん）、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 今までに免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ 風しんを含むワクチンに含まれる成分（接種医におたずねください）でアレルギーを起こすおそれのある人
- ⑥ 薬や食べ物でアレルギーを疑う症状（全身の発疹やじんましんなど）がみられた人
- ⑦ 接種当日の体調が普段と違う人
- ⑧ 家族や周りで最近 1 か月以内に麻しん、風しん、水痘、おたふくかぜにかかったことがある人がいる場合
- ⑨ 最近 1 か月以内に何か病気にかかったことがある人

■ 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後 30 分は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 副反応の多くは 24 時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。副反応が疑われる症状がでたら、速やかに医師の診察をうけてください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は、いつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

■ その他

予防接種を受けない場合

接種医の説明を十分聞いたうえで、ご本人が接種を希望しない場合や家族やかかりつけ医の協力を得ても、ご本人の意思の確認ができなかったために接種をしなかった場合、当日の体調などにより接種ができなかった場合などにおいては、その後により患、あるいは、り患したことによる重症化、死亡が発生しても、担当した医師にその責任を求めることはできません。

【お問い合わせ】周南市健康づくり推進課（徳山保健センター内） 電話 0834-22-8553